

社会科（地理的分野）学習指導案

日 時 令和3年5月28日（金）公開授業 I
 学 級 岩手大学教育学部附属中学校
 2年A組35名
 会 場 3B3C教室
 授業者 藤村和弘

1 単元名 第2部第2章 世界と比べた日本の地域的特色

2 単元について

(1) 生徒観

事前調査（図1）から、「ハザードマップの名前と内容を知っている」生徒は学年の70%で、「名前は聞いたことがある」生徒と合わせると99%にのぼり、1年生の時点でハザードマップが広く認知されていることが分かった。しかし「自分の家の周りは災害が起こる地域ではない」（20%）、「自分の家の周りで災害が起こるか分からない」（41%）と答えている生徒たちの居住地には、盛岡駅西口や向中野地区、仙北町など盛岡市の防災マップ上で大規模な洪水災害が想定されている地域が含まれており、その理解が十分ではないことが推察された。東日本大震災から10年が経過し、生徒の中にはその記憶が全くない生徒も見られる。本単元では防災をテーマに身近な地域の調査を進めることで、調査の手法や地形図の読み取り方を身に付けさせるとともに、生徒の安全に関する資質・能力を育成していく。

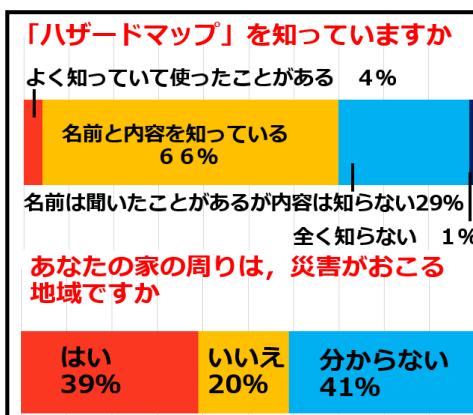


図1 事前調査（N=137）

(2) 教材観

近年頻発する大規模な自然災害は日本及び世界各地に甚大な被害を与えていることから、生徒の安全に関する資質・能力を育成することは、我々にとって急務の課題といえる。そのことは学習指導要領において小中学校ともに防災に関する記述が充実したことや、高等学校で地理総合が必修科目となったことから明らかである。本単元は中学校学習指導要領の地理的分野C「日本の様々な地域」を構成する小単元「(1) 地域調査の手法」と「(2) 日本の地域的特色と地域区分」の一部を取り扱う。図2は本単元の小中学校とのつながり（縦のつながり）と、中学校における教科横断的なつながり（横のつながり）を示しており、これらのつながりを意識して授業を構想していく。

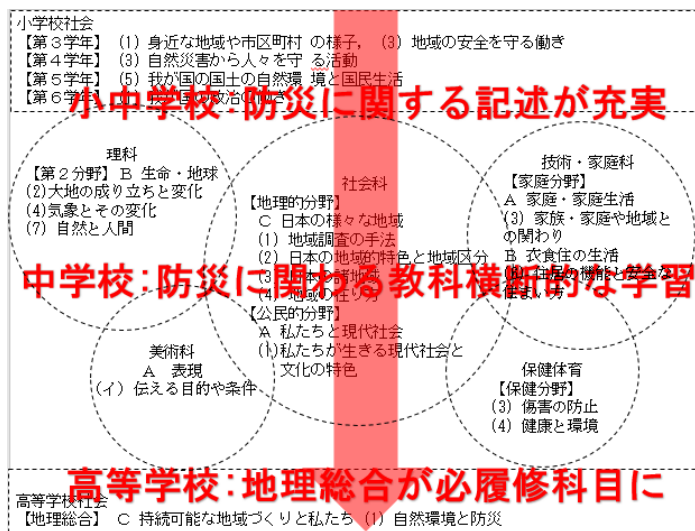


図2 安全に関する資質・能力の縦・横のつながり

また、本単元では地理的な見方・考え方の中でも特に「位置や分布（〇〇はどこに位置しているか）」、「その場所の特徴（そこはどのような場所なのか）」、「自然環境との関わり（そこで生活することは、周りの環境からどんな影響を受けているのか）」を働かせて課題を解決させたい。

(3) 教科研究との関わり

研究の視点1 主体的・対話的で深い学び

頻発する自然災害の中から、歴史的に盛岡市に大きな被害をもたらしてきた洪水にスポットをあてる。学習を進める中で、多くの生徒の生活圏である市内2か所からの避難計画を立てさせるという課題を設定することで、生徒が主体的に学習に向かうことを狙った（「見方・考え方を働かせる教師のしかけ」）。単元の学習の過程には、日本の自然環境や自然災害について理解する時間や、地形図の読み取りに関する知識・技能を習得する時間を設定し、そこで見につけた知識や技能を用いて課題の解決が行われるようにする。

また、単元の学習の中に生徒による相互評価や教師からのフィードバックの場面を位置づけ、生徒が一旦解決した（と思っている）課題について他者との協働を行いながら再び検討させることで、より良い答えに昇華するとともに、概念の構造化が図られるようにする（「評価活動とフィードバック」）。

研究の視点2 情報・情報技術の効果的な活用

本単元では情報技術の効果的な活用をめざす。学習支援アプリを用いて生徒間の情報のやりとりをスムーズに行うことに加え、野外調査で得た情報や画像をタブレット端末に記録したり、地形図の読み取りを効果的に進めるために国土地理院の電子国土 Web を利用したりするなど、内容面でも活用していく。

研究の視点3 教科等横断的な学習の推進

安全に関わる資質・能力の育成については、理科、家庭科、保健体育科と教科横断的な学習を進めることができる。例えば理科で火山や地震発生メカニズムや気象の変化について学ぶことや、家庭科で安全な住空間の整え方を学ぶこと、保健体育で傷害の防止について学ぶことは、本単元との親和性が非常に高いといえる。また、美術科では2年生後期に防災ピクトグラムをデザインする学習が計画されており、そこにも本単元での学習が生きて考えている。

3 単元計画

(1) 単元の目標

知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 日本や国内地域に関する各種の主題図や資料の読み取りを通して地域区分をする技能を身に付けるとともに、日本の自然環境に関する特色を理解する。 地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的スキルを身に付けるとともに、観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解する。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 日本の自然環境について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して多面的・多角的に考察し、表現する。 地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な調査、まとめとなるように調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現する。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 防災に関する課題に粘り強く取り組む中で、自己の学びを調整し、問題を発見したり（問題発見力）、意志決定したり、提案したりする。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知① 日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取り組みなどを基に日本の自然環境に関する特色を理解している。 技① 日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付けている。 知② 観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解している。 技② 地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的スキルを身に付けている。	思① 日本の自然環境について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。 思② 地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現している。	態① 地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野に、防災に関する課題に粘り強く取り組む中で、自己の学びを調整し、問題を発見したり、意志決定したり、提案したりしている。

(3) 指導の計画 評定に用いる評価 (●), 学習改善に用いる評価 (○)

時	学習課題・学習内容	関連する評価の観点			評価方法
		知技	思考	態度	
1	自然災害から身を守るには、どのようなことが大切なのか？ ・近年日本で起こった自然災害に関わる画像と、日本全国の災害伝承碑の位置を示した地図を見て、学習課題を設定する。 ・生徒の予想を生かしながら、今後の授業の見通し（日本の自然環境の理解、自然災害の理解とその備え、地形の特徴と地形図の読み取り）をたてる。		①	①	自分なりの予想や疑問を持っているかを評価する。（単元のワークシートの記述内容）
	日本の地形には、どんな特色があるか？ ・日本とその周辺で1日に発生する地震の回数を示した資料や、日本全国にある水害に関わる災害伝承碑を提示し、学習課題を設定する。 ・学習を通して、日本列島周辺にはプレートの境界が集中していて大地の動きが活発なことや、川や海岸の特徴を理解する。	①			学習課題に対して適切なキーワードを用いてまとめているかを評価する。（ワークシートの記述内容）

3	なぜ、日本各地の気候に違いができるのか？	①			学習課題に対して適切なキーワードを用いてまとめているかを評価する。(ワークシートの記述内容)
	<ul style="list-style-type: none"> 盛岡市や日本各地の雨温図から、学習課題を設定する。 学習を通して、季節風と日本を取り囲む海、山地の影響があることを理解する。 				
4	津波から避難する際に大切なことは何か？	①			学習課題に対して適切なキーワードを用いてまとめているかを評価する。(ワークシートの記述内容)
	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災後に大槌町で行われた岩手大学による調査結果を取り上げ、学習課題を設定する。 学習を通して、災害への対応には自助・共助・公助の視点があり、特に自助の視点が大切であることを理解する。 				
5 6	地形図を読み取り、行動計画に役立てよう。	②			地形図の使い方に関わる知識・技能を適切に用いているかを評価する(作成した地形図の内容)
	<ul style="list-style-type: none"> 空中写真と地形図を比較することで、空中写真では読み取れない要素があることに気づき、学習課題を設定する。 地理院地図 Vector や今昔マップを利用することで、縮尺、地図記号、等高線等、新旧の地図の比較等、地形図の使い方に関わる知識・技能を身に付ける。 				
7	洪水から自分の家族を守るために大切なことは何か？			① ②	思①学習課題に対して適切なキーワードを用いてまとめているかを評価する。(単元のワークシートの記述内容) 思②調査の見通しを持ってきているかを評価する(調査計画の記述)
	<ul style="list-style-type: none"> 第6時までの学習内容を振り返り、日本の自然環境の特色について多面的・多角的な視点でまとめる。 動画(2016年12月放送 FNN 重大ニュースさよなら JAPAN OLD)の視聴と、防災意識に関するアンケートの集計結果から、学習課題を設定する。 A, Bのグループに分け、盛岡市の防災マップをもとに調査計画をたてる。 				
8	洪水から自分の家族を守るために大切なことは何か？			②	複数の視点から避難場所やルートを特定できているかを評価する。『行動計画Ⅰ』の内容)
	<ul style="list-style-type: none"> ①土地の高さ、②距離、③昔の土地利用を基に④野外調査で確認した道のりの安全性等を根拠に、A, B地点からの行動計画(『行動計画Ⅰ』)を作成する。 				
9 本時	洪水から自分の家族を守るために大切なことは何か？			②	複数の視点から避難場所やルートを特定できているかを評価する。『行動計画Ⅱ』の内容)
	<ul style="list-style-type: none"> 前時までに作成した『行動計画Ⅰ』について、友だちの発表やグループ交流を通して計画を立て直す。 全体発表を通して概念形成を図る。 				
10	自然災害から身を守るには、どのようなことが大切なのか？	②		①	単元のワークシート中『終わりの考え』の記載内容
	<ul style="list-style-type: none"> 『行動計画Ⅱ』を完成させる。これまでの学習の中で生まれた疑問点について整理し、時間内に解決できそうなものについては、その解決を図る。 				

4 本時について

(1) 指導目標

地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な調査、まとめとなるように調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現させる。

(2) 評価規準

洪水から身を守るための行動計画を、居住地の特徴や目的地までの距離と時間、土地の高さ、野外調査の結果などに着目して考察し、表現している。【思考・判断・表現】

(3) 指導構想

本時は、盛岡市で想定される大規模な洪水被害から自分の家族を守るための行動計画について、見直しを図る時間である。検討を進める市内2地点については、実際に大規模な洪水被害が想定されている場所であることと、生徒の生活圏を考慮して設定した(本校の学区は市内に留まらないが、市内中心部であれば通学や通塾等で訪れやすい)。行動計画を作る際に生徒たちとは次の条件を確認する。




①生徒たちは各地点に住んでいて、自分が家に残された家族をリードして避難すること。

②平成28年に本県を直撃した台風10号クラスの台風が盛岡市に上陸し、「高齢者等避難」や「避難指示」が出される状態であること。

生徒たちが作成した行動計画について、根拠が薄いものに対しては事前に教師からフィードバックを行い、修正した計画が手元にあるようにする。

最終的に答えが一つにしばられるような課題ではないが、結論を出すための根拠を大切にし、その根拠を見出すために、これまでの学習で身に付けた地理的な知識・技能を発揮することと、野外調査の成果を用いることをねらう。

(4) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応等	指導上の留意点および評価 ・指導の留意点 ○評価		
導入	1 盛岡市内A, Bの2地点での洪水から自分の家族を守るための避難行動を、地形図の読み取りに関わる知識・技能や野外調査の成果を生かして考えていくことを確認する。	・行動計画は、結論と根拠が分かりやすいように思考ツールにまとめさせておく。		
3	洪水から自分の家族を守るために大切なことは何か？ ～A (B) 地点からの行動計画から考える～			
展開 40	<p>2 ある生徒が作った行動計画から、行動計画作成の視点を明らかにする (6分) 自分の家族が安全に避難するための視点</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> ①目的地までの高低差 ②目的地まで、あるいは川からの距離 ③昔の土地利用から心配される危険 ④実際歩いて見て感じたこと </td> <td style="width: 50%; padding: 5px; text-align: center;">  </td> </tr> </table> <p>・避難時の天候や町の状況 ・他のルートや目的地の検討 ・自分の家族について</p> <p>3 視点を基に、個人で行動計画を見直す (10分)。 <u>A地点：盛岡駅前 (盛岡駅前郵便局付近)</u> ・【目的地】 マリオス (指定緊急避難場所) 【根拠】 ①高さ：A地点 (標高 124m) →目的地 (標高 123m) ②距離：地下通路を避け、徒歩で 20 分 (約 800m) ③昔の土地利用：河川の流路→荒地 (1930 年代) →車両基地 (1970 年代) ④調査から：盛岡駅からマリオスへは階段を上って 2 階通路で移動したいが、階段が狭く、大勢の人が一気に避難すると混雑する可能性がある</p> <p><u>B地点：開運橋通 (盛岡大通郵便局付近)</u> ・【目的地】 岩手城跡公園 (指定緊急避難場所) 【根拠】 ①高さ：B地点 (標高 123m) →目的地 (標高 142.9m) ②距離：菜園を真っすぐ徒歩で 15 分 (約 700m) ③昔の土地利用：城跡公園 (史跡) (1906 年～) ④調査から：信号の数が多く、足止めを食う可能性がある。城跡公園で高台に上るまでかなりの距離と傾斜</p> <p>4 グループで、お互いの行動計画の妥当性について検討する (10分)。</p> <p>5 行動計画を見直し、再考する点を明らかにする (6分)。</p> <p>6 立て直した行動計画を発表する (2分×4人=8分)。</p>	①目的地までの高低差 ②目的地まで、あるいは川からの距離 ③昔の土地利用から心配される危険 ④実際歩いて見て感じたこと		<p>・あらかじめ取り上げる行動計画を選んでおく。 ・生徒の言葉を拾い、板書する。 ・避難する際の状況を想起させるために、「大雨への警戒レベル」, 「1時間あたり 50 mm の雨」の画像を見せる。</p> <p>・作成されると思われる他の目的地としてA地点からはアイーナと城西中 (ともに指定避難所), B地点からは仁王小と河北小 (ともに指定避難所) が考えられる。また、洪水の指定避難所ではないが、両地点から距離的に近い桜城小を選択する生徒も複数名いると考えられる。 ・提案される他のルートとしてA地点からは駅を迂回するルート, B地点からは大通りを通るルートや中央通りを迂回するルートが考えられる。</p> <p>・できるだけ異なる行動計画を立てているメンバーでグループを編成しておく。</p> <p>○『行動計画Ⅱ』の記載内容 ・学習支援アプリで集約し、学習の深まりが見られた生徒を取り上げて発表させる。</p>
①目的地までの高低差 ②目的地まで、あるいは川からの距離 ③昔の土地利用から心配される危険 ④実際歩いて見て感じたこと				
終結 7	<p>7 まとめを記入し、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 生徒の記入例) *授業の中で見つけたキーワードを使ってまとめる 洪水から身を守るためには、「いつ避難するか」の判断を間違えないように、事前に「目的地までの高さ」や「距離」, 「昔の土地の使われ方」, 「実際に観察して得た情報」などの様々な視点から「当日の具体的な状況を想定して」目的地やルートを決めておくことが大切だと思いました。いざという時にしっかり動けるように、日ごろから学習で身に付けた視点を大切にしていきます。 </div>			